

## 二つの「ぬ」

——謡伝書の胡麻章が示し分ける打消と完了——

竹村明日香（お茶の水女子大学）

室町末期から江戸期にかけて作成された謡の秘伝書（以下、謡伝書）の条目には、「消えぬ」「見えぬ」のような語例に胡麻章を施して打消の助動詞「ぬ」と完了の助動詞「ぬ」のアクセントを示し分けようとした例が見られる。本発表ではこうした例を観察し、これらの胡麻章が実際に当時の「ぬ」のアクセントの異なりを反映していたのかどうかを検討する。

鴻山文庫（野上記念法政大学能楽研究所蔵）の謡伝書を中心に調査したところ、こうした「ぬ」のアクセントの違いを説明する条目はおおよそ4系統に大別できることがわかった。また、それらの条目では打消の「ぬ」は高アクセント、完了の「ぬ」は低アクセントとして一貫して説明されている。ただし、後年の謡伝書になるほど二つの「ぬ」に附される胡麻章は不正確なものとなり、打消と完了の「ぬ」の差ではなく、打消形のアクセントの新旧の差として附していると考えられるものが見られる。

本発表では、こうした謡伝書の例を通して謡伝書が二つの「ぬ」をどのように謡い分けようとしていたのかを描き出すとともに、伝承の過程でどのように記述が移り変わっていったのかを示す。